

# 埼玉県内における宝篋印塔・五輪塔の特徴と分布域

栗岡真理子

## はじめに

埼玉県内では2万基を超える板碑、2千基を超える宝篋印塔、5千基を超える五輪塔など、併せて3万基近い中世石塔の所在が確認されている。その中で、県内産の石材を使った中世石塔としては板碑と凝灰岩製の五輪塔があるのみで、その他の中世石塔の石材産地は県内では確認されていない。これらはすべて、近隣の地域から搬入された石材を使っており、そのため石塔の意匠や構成要素にも他地域の影響が反映されている可能性が想定された。

そこで、本稿では宝篋印塔・五輪塔の石材とそれぞれに見られる特徴的な形態の分析から、その関連性について考察を加え、埼玉県内における中世の宝篋印塔・五輪塔の特徴について検討したい。

## 1 石材別の宝篋印塔・五輪塔の分布について（第1図）

第1図には、県内に所在する宝篋印塔・五輪塔の内、石材がわかっているものについて、その分布を示した。群馬県産と考えられる多孔質黒色安山岩・灰色安山岩製のものは秩父郡をのぞくほぼ全域に所在し、中心的な石材として流通していたことがわかる。利根川の転石利用が考えられるやはり群馬県産の多孔質角閃石安山岩製のものは利根川流域のうち深谷市に多く所在し、分布としては県北部に多く所在する。また、群馬県（藤岡市周辺）産の牛伏砂岩は関東管領山内上杉氏との関わりが説かれており（秋池1998）、埼玉県では県北西部に分布が偏る。東京都（青梅市周辺）産の伊奈石と呼ばれる砂岩製のものは県南部の限られた地域での所在が確認されており、偏った分布を示している。

## 2 県内で確認された石材の代表的な資料と形態について（第2・3図）

### （1）安山岩製（第2図）

1は川口市善光寺に所在する宝篋印塔で、元亨2年（1322）銘、県内最古の紀年銘宝篋印塔である。相輪を欠くものの、遺存状態のよい石塔で群馬県産の灰色安山岩製とされる。2は久喜市甘棠院に所在する五輪塔で、伝足利政氏墓である。享禄4年（1531）銘、灰色安山岩製である。3は所沢市妙善院に所在する嘉暦4年（1329）銘五輪塔で、県内最古の紀年銘五輪塔である。群馬県産の多孔質黒色安山岩製である。4は飯能市長念寺所在の至徳4年（1387）銘宝篋印塔である。基礎が2つ重なるが、どちらの紀年銘も同年であり、この寺院には至徳4年、3年銘を刻む基礎が10基以上所在しており、集団による造立が考えられる興味深い資料である。石材は灰色安山岩。

安山岩製の宝篋印塔笠は、川口市の資料は2a・上部5段、飯能市の資料は2a'・上部4段である。五輪塔の空風輪は久喜市の資料がe類、所沢市の資料が古式の形態のa類である。

### （2）角閃石安山岩製（第2図）

5は児玉町日輪寺所在の宝篋印塔であり、嘉吉3年（1443）銘を刻む。中台（笠に似た形状で、上部段形が1段しかないもの）があることから、多重式の宝篋印塔になると考えられる。6は旧神

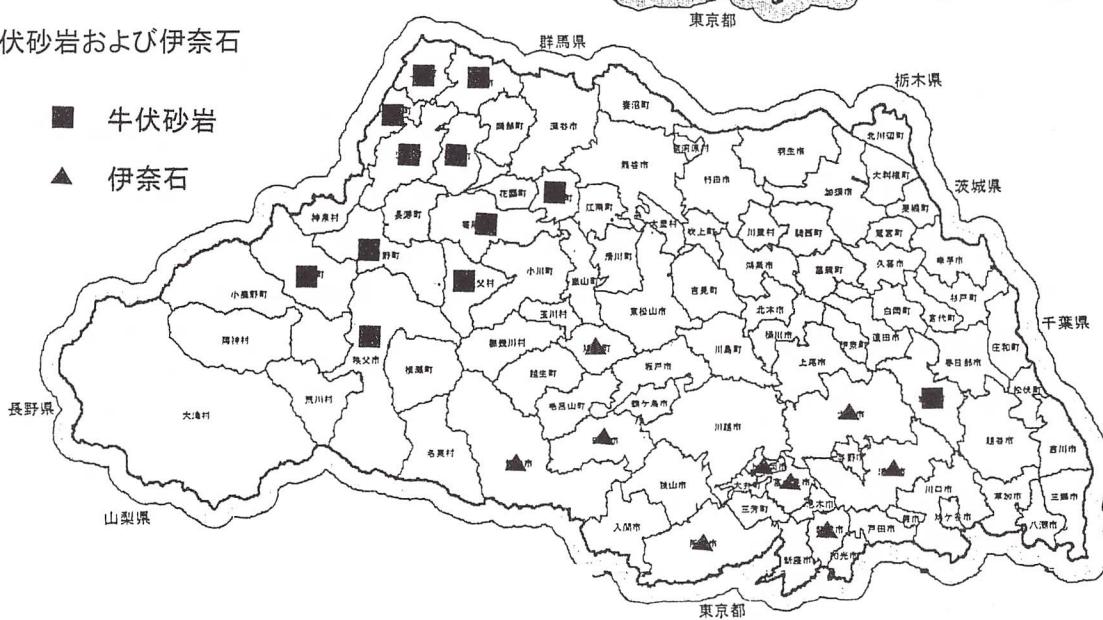
### 多孔質黒色系安山岩・灰色系安山岩



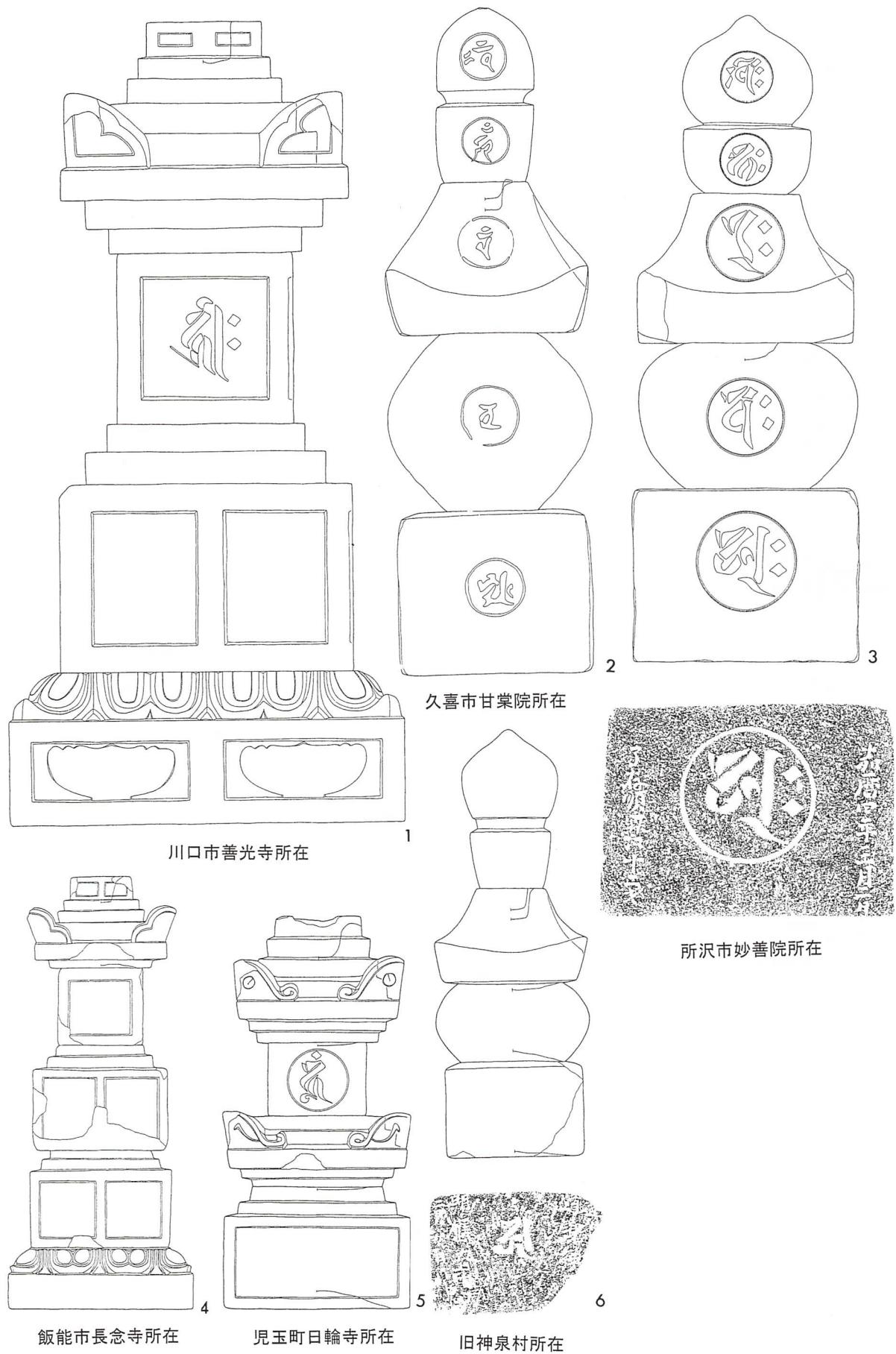
### 多孔質角閃石安山岩



### 牛伏砂岩および伊奈石

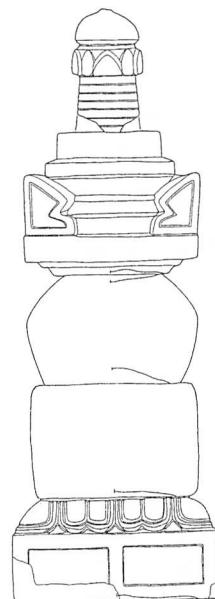


第1図 埼玉県内の石材別宝篋印塔・五輪塔分布図（秋池2005より作成）

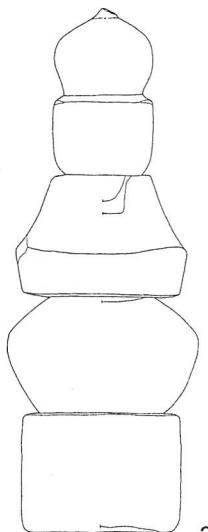


第2図 安山岩系・多孔質角閃石安山岩製の主な石塔

伊奈石製



所沢市所在

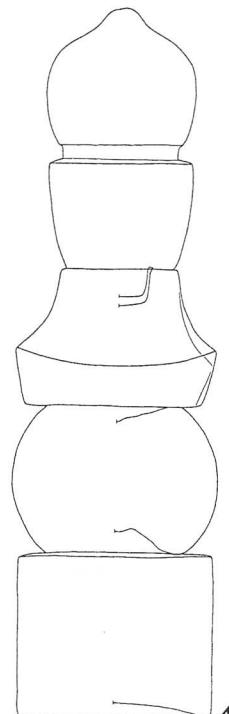
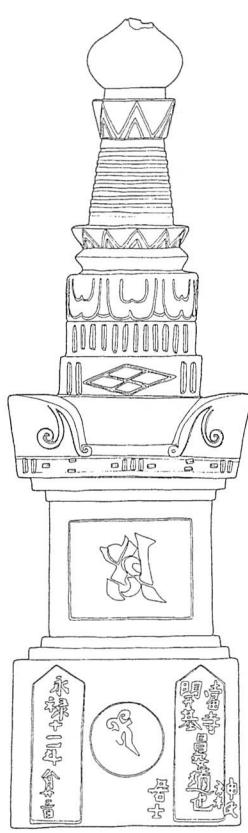


2



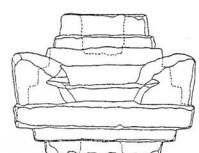
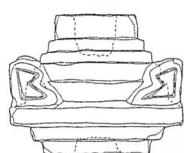
所沢市所在

牛伏砂岩製



4

神奈川県の遺跡出土資料



5

3

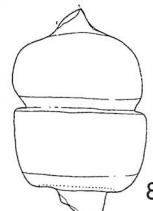
鎌倉市弁ヶ谷東やぐら群(鈴木他 2000)



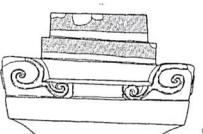
7

鎌倉市間口またやぐら群

(宍戸他 2004) 小田原市伝肇寺西第I地点  
(山口他 2004)

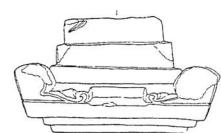


8

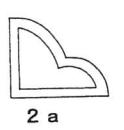


9

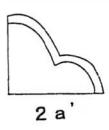
下仁田町松瀬Ⅲ遺跡(大賀他 1994)



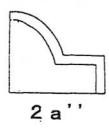
10



2a



2a'



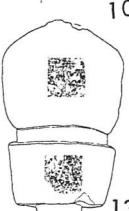
2a''



11

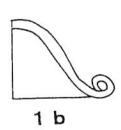


12

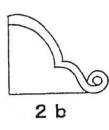


13

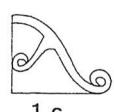
群馬町井出地区遺跡群(清水他 1999)



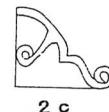
1b



2b



1c



2c



a



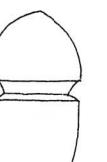
b



c



d



e



f

第3図 県内の主な砂岩製石塔、他地域の出土資料、宝篋印塔笠・五輪塔空風輪の分類

泉村所在の五輪塔で明応 9 年（1500）銘である。

角閃石安山岩製の宝篋印塔笠は 1 b・上部 4 段であり、五輪塔の空風輪は c 類である。

### （3）砂岩製五輪塔（第 3 図）

1 が所沢市所在の石塔で、宝篋印塔と五輪塔が混在して建てられており、宝篋印塔の部材は相輪・笠・反花座である。伊奈石製である。2 は所沢市所在の五輪塔で、文明 3 年（1471）銘が刻まれる。空風輪以外の部材が全て伊奈石製である。3 は旧岩槻市芳林寺所在の伝太田氏資墓である。永禄 11 年（1568）銘を刻むもので、牛伏砂岩製である。4 は児玉町千住院跡所在の五輪塔で、天正 5 年（1577）銘を刻む。牛伏砂岩製である。

牛伏砂岩製の宝篋印塔笠は戦国期型であり、五輪塔の空風輪は c 類である。伊奈石製の宝篋印塔笠は 2 a・上部 5 段である。

## 3 宝篋印塔の笠に見られる特徴と石材について

### （1）隅飾突起と上部段形の分布傾向（グラフ 1・2 第 3 図）

隅飾突起を 3 つに分類し（第 3 図参照）、県内の各郡市の造立基数を示したものがグラフ 1 である。2 弧輪郭型（2 a）は北足立郡、入間郡で非常に多く見られ、県南部・県東部に分布の偏りをみせる。蕨手形（1 b、2 b）とパルメット形は、比企郡、秩父郡、児玉郡、大里郡に多く所在し、県央部から北部にかけて分布の偏りをみせる。

グラフ 2 は上部段形の分布について示したものである。県内では 4 段もしくは 5 段になるものが主体であり、地域により以下のような偏りが見られる。上部段形が 4 段以下のものは比企郡、秩父郡、児玉郡、大里郡、北埼玉郡に多く所在し、県央部から北部にかけて分布が偏る。5 段以上のは、北足立郡、入間郡が突出しており、県南部に多く分布する傾向がつかめる。

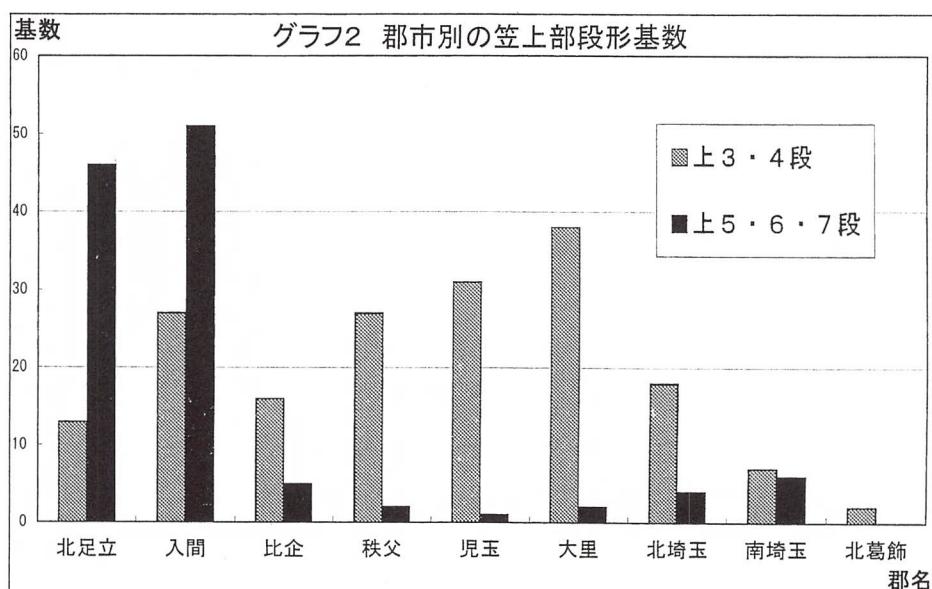
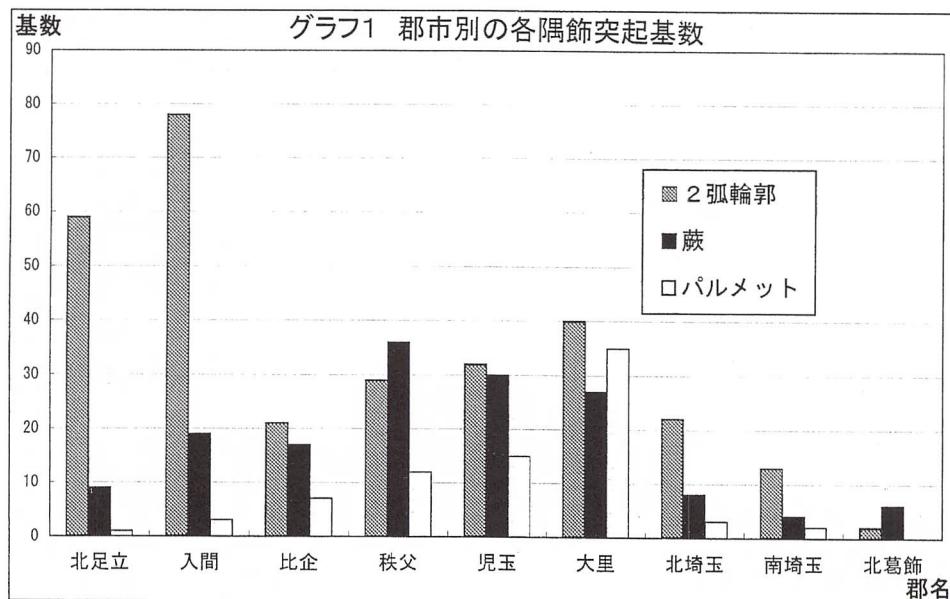
このように、隅飾突起の分布と上部段形は共通する傾向を示し、隅飾突起が 2 弧輪郭型の笠の場合上部段形が 5 段以上になり、それは県南部から東部にかけて分布する。また、隅飾突起が蕨手形もしくはパルメット形となる場合は上部段形が 4 段以下となり、県央部から北部にかけて分布する傾向がつかめる。

### （2）隅飾突起・上部段形と使用石材に見られる分布傾向（グラフ 3・4・5・6・7）

次に先述した隅飾突起と上部段形を使用される石材との関連性を検討したい。

2 弧輪郭形・上部 4 段（グラフ 3）及び蕨手形・上部 4 段（グラフ 5）及び 1 弧パルメット形（グラフ 6）の笠は、安山岩製のものが多く、その傾向は県内全域で確認できる。また、2 弧輪郭形・上部段形 5 段（グラフ 4）の笠は北足立郡・入間郡に偏って分布とともに、砂岩製のものが多い。戦国期型とされる（グラフ 7）様々な装飾が施されたパルメット形の隅飾突起を持つ笠は大里郡、秩父郡など県北部に偏って分布し、砂岩製のものが多い。

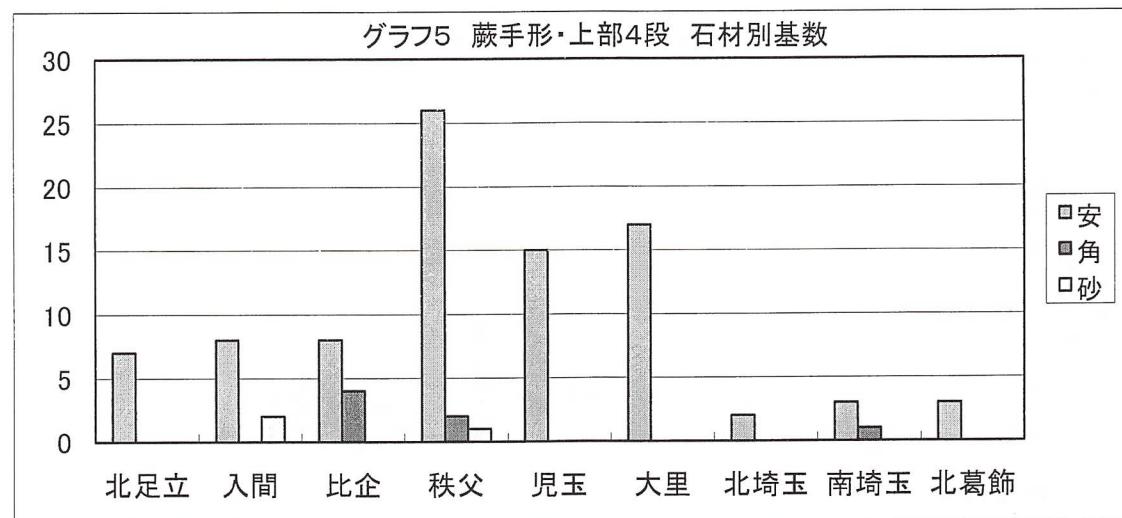
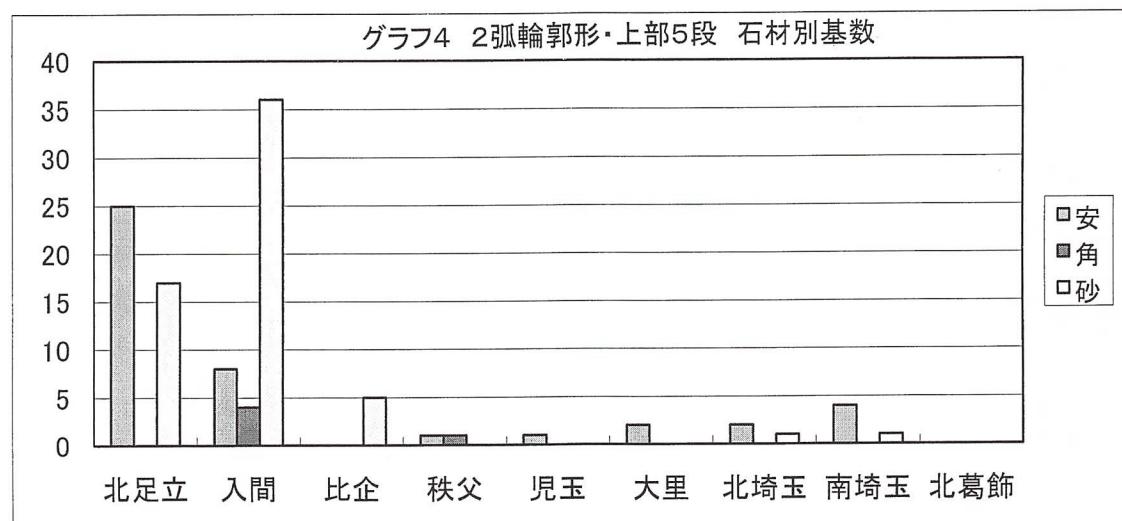
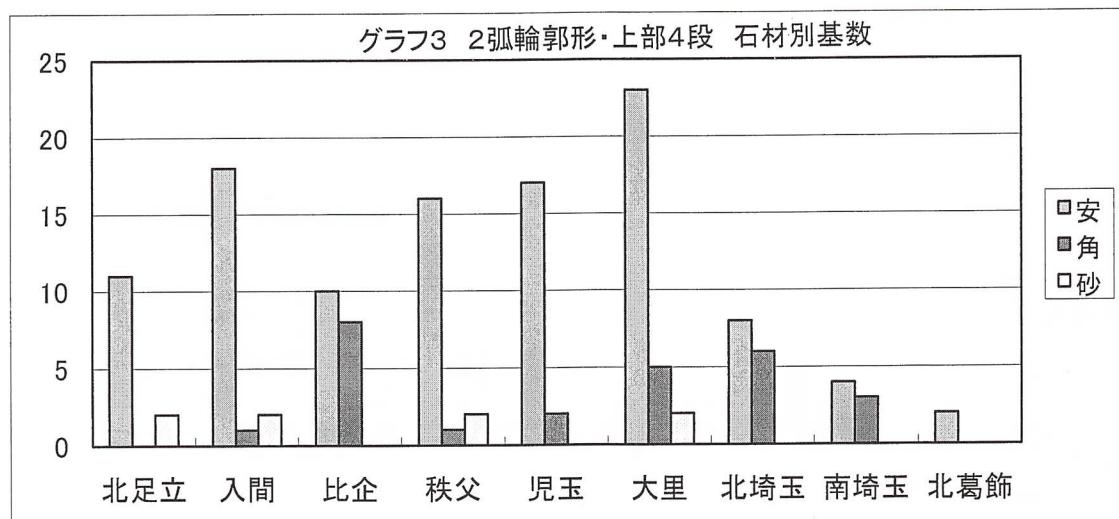
このように、上部段形が 4 段の笠は隅飾突起の形態に関わらず、安山岩を石材として使用する傾向がつかめる。2 弧輪郭形・上部 5 段の笠の分布は第 1 図の伊那石製石塔の分布と重なり、興味深い。また、戦国期型の笠の分布は第 1 図の牛伏砂岩製石塔の分布と重なり、伊那石の場合と同様の傾向を示す。

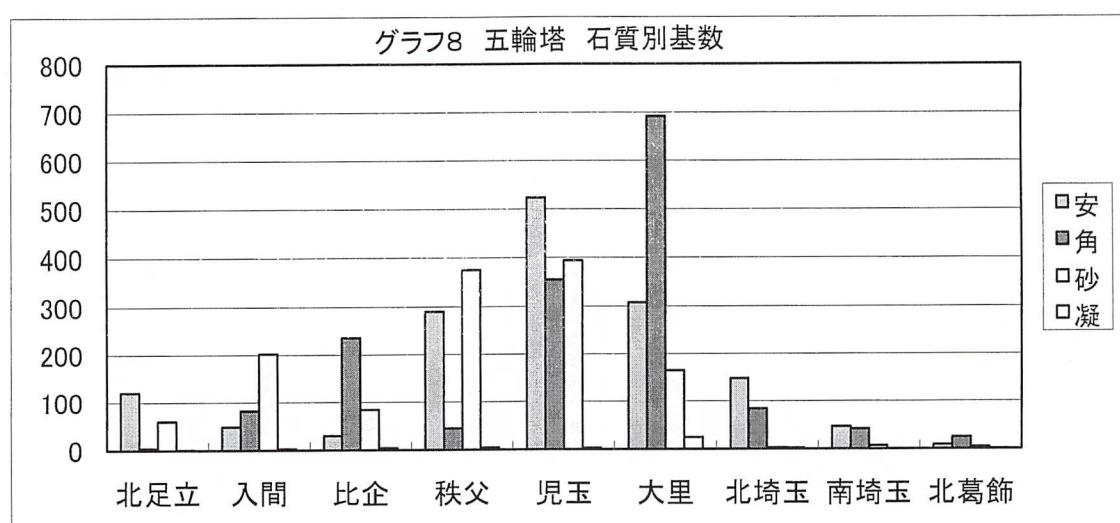
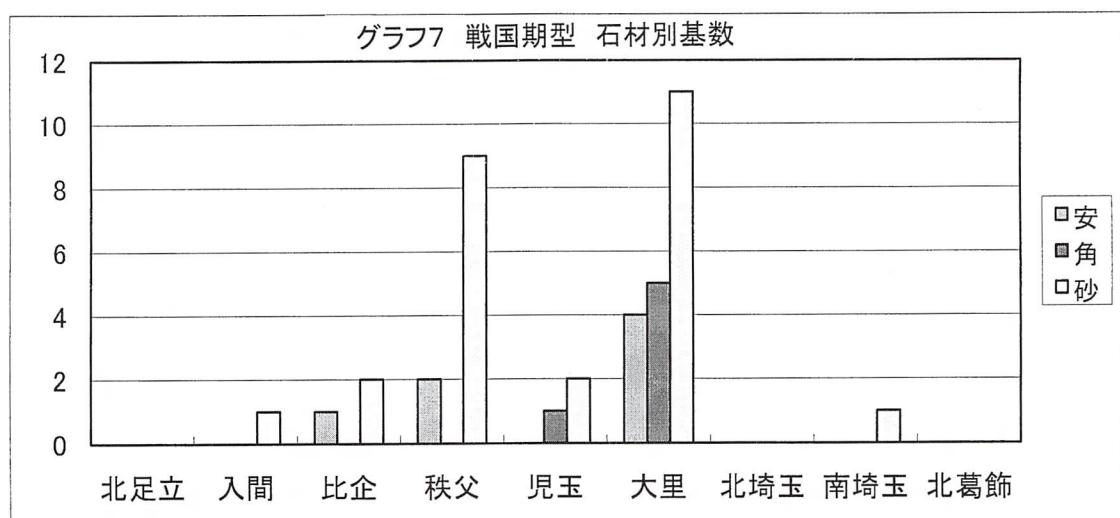
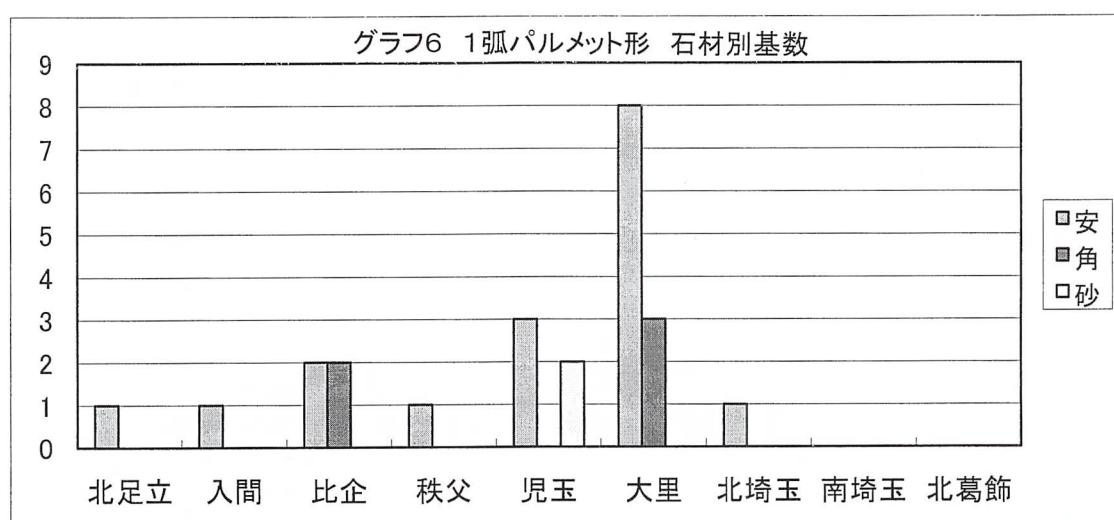


埼玉県 各郡市位置図

表1 郡市別宝篋印塔部位基數

都市\部位	相輪	笠	塔身	基礎	反花座	合計
北足立	42	119	19	106	49	335
入間	107	147	65	134	80	533
比企	52	87	32	74	31	276
秩父	181	130	81	93	1	486
児玉	110	138	76	96	5	425
大里	107	163	68	110	29	477
北埼玉	28	56	21	70	40	215
南埼玉	10	33	13	44	22	122
北葛飾	8	13	6	7	2	36
合計	645	886	381	734	259	2905





## 4 五輪塔の石材について（グラフ8）

### （1）石材の分布傾向

五輪塔は無銘資料が9割を超えるものの、板碑に次ぐ基数が造立されており、県北部の児玉郡・大里郡にその造立基数は大きく偏る。県内の五輪塔に使用される石材は概ね4種類であり、多孔質安山岩や灰色安山岩などで造られたもの=安山岩製、角閃石安山岩製、砂岩製、凝灰岩製に分けることができる。

安山岩製の五輪塔は県内全域に分布し最も一般的な石材である。これは第1図に示した群馬県を産地とする安山岩製石塔の分布とも重なる。角閃石安山岩製のものは、大里郡の分布が突出しており、利根川の転石利用と関連する結果と考えられる（秋池1998）。砂岩製のものは入間郡、秩父郡、児玉郡で多く確認され、宝篋印塔と同様に牛伏砂岩製及び伊奈石製の石塔と分布が重なる。凝灰岩製の五輪塔は古式の形態を示すものに使われており、造立基数は40基程度である。極めて数が少ないことから、分布による傾向をつかむことは難しいが、その多くは群馬県産の凝灰岩である。

五輪塔に使用される石材は数量的な面から見ると、角閃石安山岩が最も多く、分布は大里郡について、児玉郡・比企郡などの県北部に偏っている。また、この石材が宝篋印塔に使われることはあまりなく、宝篋印塔への使用例も大里郡に集中する傾向を示しており、流通範囲が限られた石材である。県内全域で確認される安山岩とは異なる分布傾向を示している。

### （2）空風輪の形態と石材について

五輪塔の空風輪については、五輪塔の変遷を考える一つの指標になると想え、6つに分類した（第3図 栗岡2001）。a類は古式の五輪塔に見られる形態で凝灰岩製が多く、主として14世紀代に位置づけた。b類、c類としたものは、14世紀末頃から見られるようになり中世全般にわたり県内では確認できた。また、この形は県内では最も多く所在する形態であり、角閃石安山岩製、安山岩製、砂岩製と石材を選ばない。d類、e類も県内各地に所在する資料であるが、その出現はb類・c類よりやや遅れると想えた。安山岩製もしくは砂岩製が多い。f類は中世末期に出現する形態と考え、砂岩製もしくは安山岩製の資料が多い。

## 5 北関東と南関東の影響（第3図）

第3図5～8は埼玉県以南でよく見られる形態として神奈川県鎌倉市、小田原市の遺跡出土の資料を、第3図9～13には埼玉以北でよく見られる資料として群馬県の遺跡出土の資料を掲載した。

第3図5は隅飾突起2弧輪郭形の隅飾突起・上部5段、6は2弧無文の隅飾突起・上部5段で、ともに安山岩製である。第2図1や第3図1の笠のように2弧輪郭形・上部5段の特徴をもつ。7の空風輪はa類、8はf類で、ともに安山岩製である。管見の限りではあるが、蕨手文もしくはパルメット形の隅飾突起を持つ宝篋印塔笠や、b類・c類の五輪塔空風輪は神奈川県内の遺跡出土資料の中には確認できず、宝篋印塔笠の上部段形は5段となるものが殆どである。

第3図9笠は隅飾突起2弧パルメット形・上部4段で砂岩製、10は2弧蕨手形・上部4段安山岩製である。11～13の空風輪はb類とc類であり、角閃石安山岩製である。管見の限りではあるが、群馬県内の遺跡出土資料ではb類、c類は最も多く確認できる空風輪の形態であり、宝篋印塔笠の上部段形は4段となるものが殆どである。

南関東の宝篋印塔笠に見られる特徴は埼玉県内では県南部・県東部に見られる特徴と共に通してお

り、石材の分布と重ねると伊那石製石塔の分布との重なるところがある。また、北関東の宝篋印塔笠に見られる特徴は埼玉県内では、県北部地域に見られる特徴と共にしている。さらに、第1表にあるように、宝篋印塔の部材のうち秩父郡、児玉郡、大里郡など県北部では反花座の所在基数が著しく少なく、関東形式とされる宝篋印塔の要素を満たさない状況である（川勝1981）。群馬県の遺跡調査報告書等を見る限りでも反花座の出土例は殆どなく、神奈川県など南関東とは異なる出土状況を示している。

このように宝篋印塔を構成する部材の有無にも地域性があると考えると、隅飾突起上部段形等の石塔の意匠のみでなく構成要素（組み合わせる部材の選択）についても、埼玉県に所在する石塔は北からの影響を受けていることが伺われる。また、群馬県産の安山岩製石塔が県内全域に分布することと、空風輪b類・c類が石材を選ばずに県内全域に分布することを考えると、埼玉県内の中世石塔は五輪塔・宝篋印塔とともに、北からの強い影響を受けて造立されたと考えられる。そのような中、南からの影響と思われる2弧輪郭形の隅飾突起や伊奈石の流通など、県南部地域では南関東の影響を受けた石塔も造られている。今回は石材の細分ができなかったが、県南部の安山岩製石塔の中には、箱根地方の安山岩も含まれる可能性が考えられ、石材流通と石塔の意匠の分布範囲には関連性があることが考えられる。

## おわりに

筆者は過去に県内の中世石造遺物調査を行った際に、県南部と県北部に所在する宝篋印塔笠の隅飾突起の意匠や上部段形が異なることなどについて、他地域の影響があるのではないかと感じていた。今回の検討により、南の影響と北の影響が見られる境界を大まかにとらえると、北足立郡南部一入間郡（入間川）付近に境界をとらえることができるのではないかと考えている。今後さらに検討を深めたい。

## 《参考文献》

- 秋池 武 1998 「利根川流域中世石造物石材の流通と変遷」『群馬県立歴史博物館紀要』第19号  
秋池 武 1998 「関東管領山内上杉氏と牛伏砂岩・多孔質角閃石安山岩について」『群馬県の考古学』  
秋池 武 2005 『中世石材の流通』高志書院  
大賀 健他 1994 『杣瀬I遺跡・杣瀬II遺跡・杣瀬III遺跡』下仁田町教育委員会  
川勝政太朗 1981 『新版石造美術』  
栗岡眞理子 2001 「埼玉県の中世五輪塔編年案」『研究紀要』第23号 埼玉県立歴史資料館  
栗岡眞理子 2002 「埼玉県の中世宝篋印塔の変遷について」『研究紀要』第24号 埼玉県立歴史資料館  
埼玉県教育委員会 1998 『埼玉県中世石造遺物調査報告書』埼玉県立歴史資料館  
宍戸信悟他 2004 『間口またやぐら群』かながわ考古財団調査報告172 財団法人かながわ考古財団  
清水 豊他 1999 『井出地区遺跡群』群馬町埋蔵文化財調査報告書第25集 群馬町教育委員会  
鈴木庸一郎他 2000 『弁ヶ谷東やぐら群』かながわ考古財団調査報告94 財団法人かながわ考古財団  
山口剛志他 2004 『平成13年度小田原市緊急発掘調査報告書3 小田原城総構 伝肇寺西第I地点』小田原市文化財調査報告書第118集 小田原市教育委員会